

平成 30 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

「知・徳・体」のバランスがとれた生徒を育み「絆」を大切にする学校	
1	わかる喜びや達成感を味わわせ、社会を生き抜くための「豊かな学び」（「知」）を定着させ、進路実現を図る。
2	やさしさを基盤に厳しく粘り強い生徒指導を展開し、規範意識を高めるとともに基本的生活習慣の確立に努め、豊かな人間性（「徳」）を醸成する。
3	健康で安全な社会生活が営めるよう、健全な心身（「体」）をはぐくむ。
4	生徒と生徒、生徒と教職員、教職員と保護者、そして地域や中学校との連携を強化（「絆」）する。

2 中期的目標

社会の一員として自信を持って生きていける自立した人づくり	
1	社会を生き抜くための「豊かな学び」の推進 (1) 新学習指導要領を踏まえ、わかる授業を展開し、社会で生き抜くことのできる学力を身につけさせる。 ア 教材や指導法の工夫を図り、基礎的・基本的な学力を定着させるとともに、充実した言語活動を展開する。 イ 授業公開や授業アンケート等を活用し、積極的に授業改善を図る。 ウ 外部から専門家等を招き講義・講演や体験的授業を積極的に展開する。 エ 学校図書館を活用し、生徒の読書習慣を確立する。 *授業アンケート「生徒の意見や要望を聞いて、授業を工夫し改善している。」を80％を以上を維持する。
2	基本的生活習慣の確立及び規範意識・健全な心身の育成 (1) 社会人として自立し、社会の一員として生きていけるよう基本的生活習慣と規範意識を身につけさせる。 ア あらゆる教育活動において規範意識の醸成を図り、きめ細かい温かみのある生徒指導を徹底する。 イ 基本的生活習慣が確立できるように、あいさつの励行、欠席・遅刻等の指導を徹底する。 ウ 社会の一員として生きていけるよう「総合的な学習の時間」・LHRや長期休暇等を活用し、キャリア教育や志学を効果的に展開する。 (2) 美しい学校環境、安全安心な学校づくりをとおして、地域との連携を深め生徒が健康で明朗に活動できる場を提供する。 ア 引き続き校舎内外の環境美化に努め、生徒の心身の健康に寄与する。 *学校教育自己診断「遅刻や欠席を無くすよう、自分なりに一生懸命頑張っている。」を50％以上にする。（H29 年度44％）
3	生徒・保護者・中学・地域と相互の「絆」の強化 (1) 生徒・保護者と緊密な関係を築き、生徒への指導と支援を行う。また、保護者や卒業生、中学生や地域の方々との深い連携を継続して理解と支援を得る。 ア 日常的に家庭との連絡を密にし、保護者との連携により生徒の指導や支援に取り組む。また、行事等においてより PTA 等との協力・連携し、行事等を実施する。 イ 部活動や行事等での交流、授業の相互見学などの実践により、小中学校や地域との相互連携を深める。 ウ 引き続きホームページの維持に努め、本校教育活動についての理解を得る。 *フラワーフェスタ、スポーツフェスタ等の対外行事の継続・維持。行事や懇談に来校する卒業生・保護者・地域の方々を増やす。
4	教員間の一層の連携を図り協力体制を強固にし学校経営を推進 (1) 校内体制を整備し、教員間の協力体制をさらに強固にし次の事案を実施する。 ア 閉校記念事業を企画、実施する。 イ 校内物品等の廃棄及び移管作業を進める。 (2) 最後の1年、教育の質の保障に努め、生徒たちが明るく元気に学べる学校の維持に努める。 “本校で学べてよかった”という思いを持ち、全員が卒業できるよう努める。 *計画的に校内物品等の廃棄・移管を終える。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔平成30年12月実施分〕	学校運営協議会からの意見
＊実施方法 生徒への学校教育自己診断アンケートは12月の期末考査第1日（12/4）に実施し、回収率も89/90人(99%)と昨年度（95.3%）を上回った。 保護者は例年と同様、12月中旬に生徒に配付・回収し、63/90人(70%)と今までにない回収率であった。（H28 年度 41.1%、H29 年度 38.5%） 教員は、100%の回収率であった。 全体的に昨年度平均と比較すると、肯定的な回答の少し数値は落ちている。 昨年（2年生）と今年の3年生の数値と比較すると、24項目中8項目がアップ、14項目がダウン、同じが3項目であった。比較差が出た項目は大きい順に、 「環境の問題について、学ぶ機会がある。」（+19P）、 「遅刻や欠席を無くすよう、自分なりに一生懸命がんばっている」（+18P） 「パソコンやDVDなどの視聴覚機器を用いた授業が多い」（+9P） 「実験や実習、ワークショップなど、体験を通して学ぶ授業が多い」（+7P） 「学校のホームページをよく見る」（+7P） 保護者アンケートでは、「成績の出し方について、納得できる」（+38P） 教員アンケートでは、「体育祭・文化祭、遠足などの行事は楽しい」（+24P） また、教員の「各分掌や学年の連携が円滑に行われ、有機的に機能している」の肯定的な回答は、100%であった。	第1回学校運営協議会（6/11） ●委員からの質問・意見 ・子どもは充実した高校生活を送らせてもらっていると思う。今より生徒が減ることのないよう望みたい。 ・進路指導について、8月の終わりかと思うくらい濃い内容の指導をしていて、生徒達も熱心に取り組んでいて少し驚いた。 ・閉校にあたり同窓会はどうなるのか。同窓会費の残金はどうするのか。 ●委員長まとめ ・今年度から学校運営協議会として新たにスタートした。西淀川高校の最後の生徒となる3年生全員が希望の進路を決め、最後の卒業式を委員全員で出席してみんなで送り出したい。 第2回学校運営協議会（10/24） ●委員からの質問・意見 ・平和人権講演会「南スーダン、アフガニスタン、シリア」を実施されていて、世界の情勢も知ることでも良いと思うが、もう少し身近な地域のことや他のテーマもよいのではないか。 ・今年度の生徒の授業参加率は良いのか。 ●委員長まとめ ・授業見学と第1回授業アンケートの結果報告で、生徒たちが授業を元気に受けている様子と授業アンケート結果から概ね順調にきていると思われる。生徒全員が卒業を迎えられるよう今後も先生方に頑張っていただきたい。 第3回学校運営協議会（2/4） ●委員からの質問・意見 ・第2回授業アンケートの「遅刻なく出席しているか」の数字が下がっている原因は、第2回アンケートの実施時期が12月という事で就職先や進学先が決定した安堵感に関連するのではないか。 ・授業の工夫に関する設問の数値が上がっているのは、先生方の努力や授業改善の表れだから、良い結果だと思う。 ・39期生進路状況において、経済的事情で未定という生徒もいるがどのような状況か。 ・物品の移管・譲渡に関して他校へはどのように周知しているのか。 ●委員長まとめ ・学校（運営）協議会会長を長年しているが、ここ数年で集中して授業に取り組んでいる生徒が多くなっている。生徒の数が減ったことも影響しているのか、教員と生徒との距離が更に近くなり丁寧にかかわってくれていると思う。最後の生徒たちが全員卒業できるように願っている。

府立西淀川高等学校

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 社会を生き抜くための「豊かな学び」の推進	(1)わかる授業の展開、社会で生き抜くことのできる学力 ア 教材の工夫を図り、基礎的・基本的な学力の定着 ウ 外部専門家等による講義・講演・授業研究 エ 生徒の読書習慣の確立	ア・生徒の実態に応じたプリント教材を作成し、学び直しを含む基礎学力の充実を図る。 ・ICT等の活用により教科の教材等を共有化し、授業づくりの効率化を図り、授業内容を深化させる。 ウ・教員の少人数化から、学校教育の質の低下を招かないよう授業等を工夫し、学校外から様々な分野の専門家を招くなど授業の一層の充実に努める。 エ・読書推進週間を設定、読書活動を推進する。	ア・授業アンケートで「授業で出される課題の量やプリントなどの教材の内容は自分に合っている」3.3台を維持する。(H29年度3.30) ウ・学校教育自己診断で「学校へ行くのが楽しい」が60%以上(H29年度55%) ・教育の質の向上に努め、授業などで4回以上外部講師等を招く。 エ・図書館を利用した授業の一層の推進。図書館利用生徒の割合を全校生徒の80%以上をめざす。	ア・H30年度の授業アンケートにおいて「授業で出される課題の量やプリントなどの教材の内容は自分に合っている」は3.34であった。 (◎) ウ・学校教育自己診断で「学校へ行くのが楽しい」が53%であった。 (△) ・教育の質の向上に努め、授業などで7回、外部講師等を招いた。 (◎) エ・最終、図書館利用生徒の割合は全体生徒の利用があり100%であった。 (◎)
2 基本的な生活習慣の確立及び規範意識・健全な心身の育成	(1)基本的生活習慣の確立と規範意識の定着 ア 規範意識の醸成、中学校との連携強化、きめ細かい温かみのある生徒指導の徹底 イ あいさつの励行、欠席・遅刻等の指導の徹底 ウ キャリア教育や志学の展開 (2)美しい学校環境、安全安心な学校づくり ア 引き続き校舎内外の環境美化に努める	(1) ア・教育相談や生徒の発達といった広範な内容を含む生徒指導に係る職員研修を実施し、生徒とのかかわりを深める糧とする。 イ・毎朝、教員が交替で校門での登校指導の取組を行う。また、定期的に『遅刻0週間』指導を行うとともに、欠席・遅刻の多い生徒については家庭連絡を徹底し、保護者の指導を要請する。 ・4・9・1月を「あいさつ月間」とする。 ウ・キャリア教育の取組を全教員で推進し、仕事の意識を高め就労意欲をもたせるための取組を積極的に取り入れ全ての生徒の進路希望実現をめざす。 (2) ア 地域の方との清掃活動などで交流することで自己肯定感を高める。	(1) ア・生徒の実態や教職員のニーズ合わせた職員研修を年間4回以上開催する。(H29年度4回) イ・学校教育自己診断「毎朝、先生と生徒ときちんと挨拶ができている」の肯定的な回答を80%以上をめざす。(H29年度75%) ウ・希望進路実現率100%を維持する。 ・個別支援の必要な生徒に対し、きめ細かい進路指導を実施する。外部関係機関との連携を図り、進路実現に努める。 (2) ア 地域との合同清掃活動を年7回以上実施する。(H29年度4回)	(1) ア・本年度、最終的に職員研修を年間6回開催。また、職員研修(報告)を5回開催 5/14 奨学金研修会 6/4 進学アサーティブ研修 7/10 SCによる研修 7/12 AED研修(心肺蘇生) 10/18 色彩による 12/6 「大阪の人権」 (◎) イ・学校教育自己診断「毎朝、先生と生徒ときちんと挨拶ができている」の肯定的な回答を73%であった。 (△) ウ・今年度、PTAの協力により就職支援コーディネータを配置。希望進路実現100%維持。また、個別支援の必要な生徒に対してきめ細かい指導を実施。 (◎) (2) ア・地域との合同清掃活動を8回実施 エコ部を中心に部活動生徒が参加。 (◎)
3 生徒・保護者・中学・地域と相互の「絆」の強化	(1)生徒・保護者と緊密な関係構築。広報活動の充実 ア PTAとの一層の連携 イ 小中学校との相互連携 ウ ホームページの維持	ア・PTAと後援会・同窓会の協力体制をより深め、保護者などの学校行事等への積極的な参加・協力を求め、生徒の学校生活への充実を図る。 イ・周辺の小・中学校を中心に部活動や行事等での交流等により、校種をこえた相互連携をさらに深める。 ウ・引き続き、広報活動に取組み、地域・中学校から本校の教育活動についての理解をえる。	ア・体育祭や文化祭などの行事や閉校式などPTAと後援会・同窓会との一層の協力を図り、地域の方々を含め多くの参加を得る。 イ・フラワーフェスタ等の行事を実施し、地域との一層の連携を図る。 ウ・HPをタイムリーに更新し情報発信に努める。年間更新数を前年度の3分の2以上とする。(H29年度148回)	ア・体育祭への飲料水提供や競技参加 中学校長 2名 保育所 41名 淀和会・後援会・緑栄会 7名 PTA 30名 計88名(昨年度75名) ・文化祭において今年度も西淀汁の提供。 (◎) イ・フラワーフェスタ(約80名参加)、スポーツフェスタ(卓球・地元中学校生25名参加)を実施。 (◎) ウ・HPの更新回数は147回 (◎)
4 学校経営の効率化	(1)校内体制整備と再編整備事業推進 ア 閉校記念事業の企画、実施 イ 校内物品等の廃棄及び移管	(1) ア・閉校記念事業実行委員会により、閉校記念事業を企画・実施する。 イ・校内物品等の移管計画を作成し、廃棄及び移管について計画的に作業を行う。	(1) ア・閉校記念事業を企画・実施する。 ① 閉校記念誌の作成 ② 閉校式の実施 など イ・校内物品等の廃棄や移管を終える。 ① 閉校に向け計画的に物品の廃棄や移管を実施し、年度末に完了する。	(1) ア・閉校記念事業を企画・実施。 ① 閉校記念誌実行委員を月1回開催。閉校記念誌1000部印刷配付。 (◎) ② 校訓碑移設・記念碑設置。閉校式など実施に向け準備中。 (◎) イ 物品等の移管、廃棄を計画的に進め、3月末には順調に完了。 (◎)